

第4回津別町市街地総合再生基本計画推進協議会 会議録

1. 新たに移植する委員への委嘱状交付について

ー町長より委嘱状交付ー

2. 開会

事務局：【欠席者の報告】齊藤委員、福井委員遅れる。中村委員欠席。林協の正式名称間違っている（津別町→津別地区）。

3. 会長挨拶

会 長：第3回で忌憚ない皆さんの意見をいただいた。また、意向調査の結果も出された。ここでもう一度、この協議会の在り方について確認したい。私及び事務局の不利もあり、反省するところである。いろいろな意見が出されたが、この協議会は市街地総合再生基本計画を基に「まちなか」をどう活性化させていくか、どんなまちを創っていくか、皆さんの意見を聞いて前進させるための協議会である。計画実現のため皆で力を合わせて進め、その中で意見交換をしていく場ということで位置づけられている。そこのところを改めて確認し、進めたい。

3. 前回会議録の確認

ー異議なし、承認ー

4. 【報告事項】①前回協議会からこれまでの経過について

②まちなか再生事業調査特別委員会における議論について

ー事務局より説明ー

委 員：補助事業活用する上で、アルファとの覚書は補助事業上問題無いのか、という前回の問いに対しては今回も回答できないということによろしいか。

事務局：その通り。申し訳ない。

委 員：アンケート結果を受けて、町としての考え方は示されないのか。

事務局：今回は示すことができない。特別委員会の際に示す。

委 員：町としての考えについて今回協議できなければ今後の協議に支障は無いのか。アルファコートとの契約の協議は出来ないということになるが。

委 員：町の考え示さずに話を進められるのか。ありえないことである。

会 長：契約については一旦止まっている。計画の進め方についてアルファコートにどう指示するか。ここで議論したこと、どのような整備内容をするかを伝える議論を行うべき。あくまでも方向付けの場である。やるやらないは協議すべき場

でない。

委員：商工会の皆さんの根本的な考え方だと思うが、進める前提でアイデア出してくださいと言われても、反対している身としてはアイデアも出ない。歩み寄ることもできない。私たちがここにいる意味が無い。反対の意見を吸い上げていたきたい。ありきという考え方に納得いかない。

会長：基本計画に則ってきたことではないか。ここで反対とか議論をする場ではない。

委員：基本計画は良い。だが、ドラッグストアのみに反対している。

会長：意向調査結果では、若い世代の意見、年配者の意見それぞれあるがそれを考えた上での発言なのか。

委員：もちろんである。年寄の意見を取るのか、確かに疑問である。若い人のために何ができるのかを考えた提案であるが、商工会と町とでは考えに相違がある。我々が納得できることではない。賛成か、反対かと言われたら商工会として反対と言わざるを得ない。

会長：反対としての意見を言わせて欲しい。それが計画にどう盛り込まれるのかをみんな理解して進めていくということか。

委員：そのとおり。

アドバイザー：商工会として反対ということだが、議決なり行われているのか。総意か。

委員：女性部に関してはそうだが、親会にも私は出ており、その中でも反対の意見が出ている。

委員：機関決定はされていない。まちづくり懇談会で会長から「反対」の意は示している。

アドバイザー：事業全体ではなく、ドラッグストアに反対ということか。その理由は？

委員：ドラッグストアのことだ。既存のスーパーとの商品の重複。コロナ禍において、ニコットの出店もあり、経済的悪化も、人口減少も目に見えている。既存の薬局に話を聞いたが、そういうものが出てくるなら早く店を閉めようと思っている。個人商店が無くなのなら、その機能を維持するというのが、町の考えだが、そうではないと思うが。商工会との懇談会の意見についても実際より、ゆるやかな意見しか記載されていない。

アドバイザー：意向調査の結果を受けても商工会は断固反対なのか。

委員：最初からずっと反対である。

アドバイザー：調査結果でも若い世代からは期待する意見が多くあるが。

会長：ちょっと待ってください。議論は協議事項に入ってからにしましょう。

5. 【協議事項】①まちなか再生町民意向調査の結果について

②まちづくり懇談会における意見について

事務局：(先ほどの委員からの問いに対して) 制度上、法律上の話は下調べした上で進め

ていく。制度的、法的にアルファではダメとなれば、一旦立ち止まることとなる。

－事務局より説明－

委員：計画を進める上で議決権はどこにあるのか。建物の面積、建物が提案レベルなのか、決定事項なのか、その議決は誰がしているのか不明である。

会長：議決というよりはこの協議会で承認という形で、議決は議会である。

委員：本協議会は提案をまとめる場という認識でよろしいか。それであれば、グループワークなどで合意形成を図っていくべきではないか。

会長：プランに対して協議を進め、意見を集約し提案をつくるという流れだと考えるが。

委員：これまでは意見が散乱していてまとまっていない。協議会としての意見をまとめていくべきだと思うが。

会長：冒頭に反省として述べた部分でもある。委員の意見を推進協議会としてまとめて答申したい。

事務局：福井委員の仰るとおり。プランをどうしようとか、その議論にたどり着いていないというのが現状である。スタート地点にたどり着いたらグループワーク等手法は検討していきたい。

委員：れまでは議論に結論が付いてこなかった。何故できないのか、どういった建物が町民にとってメリットがあるのかなどの議論ができていない。補助申請書が出来上がってしまえば、変更もきかないのではと思うがどうか。

事務局：今回は12月が国への申請になるが・・・

会長：申請した後で変更できる点、出来ない点を示した上で、この点は変更できるのか、細かいところはまだ先として、どこまでできるのかという質問だと思うが。前回、そのようなことで出された意見をまとめられず反省しているが、どうしたら計画がスムーズに進むのか、こういう整備で良いのか、町民の総意なのかというところを議論し、できるもの、できないものをはっきりさせ、方向を決めていくような感じで進めたい。

委員：話す階層がたくさんあって、事業の可否から中身の話までバラバラどうして良いか分からないところもあった。予算が決まったら中身は変えられないのではとの不安もある。そうなる和我々の来ている意味が無い気もしてしまう。申請してしまったら、議論は終わりなのではないかということもある。それがそうではなく、議論を重ねていくというのであれば賛成する。その辺は会長にお願いしたい。事業費や構造なども含めて議論していくべきだと思う。

会長：今日は一人ひとり発言を求めたい。その内容を持ち帰って、また報告してもらい、協議会としても方向性を見出していきたい。

委員：その通り。みなさんそれぞれの立場で出ている。商工会の立場でいけば、ドラ

ッグストアの出店で廃業が早まる方がいる。そういうことで商工会の立場として反対。委員としての発言が、所属団体の代表としてとられると困る。特別委員会の際に、町の考えを出さなかった。覚書の件、民間物件の補償の件など、一つ一つを整理しながら進めていかなければならない。何故、一つ一つを解決せずに進めてしまうのか。

委員：意向調査の問2で、将来の人口減、財政負担が不安だとの声が多い。利便性を考えるとあった方がよい。ただ、最後は財政である。自己負担は大丈夫という前提で町は提案しているが、前回会議で経常収支比率について、わからないと回答している。わからない中で大丈夫か。町として財政的にも大丈夫というお墨付きが無ければ。まだ財政シミュレーションについての説明を受けていないので、説明を聞きたい。

アドバイザー：大枠を整理しなければ前に進まない。財政の問題があるのも当然。全体のスキームは賛成だが、財政が大丈夫だという条件付きだという意見があり議論が必要。事業全体は良いがドラッグストアの出店は反対という意見もあり、細かい議論も含めまだある。だからまず、大枠として賛成なのか、賛成の際の条件は何か。など整理していけば良いと思うがいかがか。

委員：それぞれの団体の代表として出てきているので立場的に反対しても良いと思っている。社会教育として幼年～老年までの代表として発言したいと思う。意向調査結果を見て思ったのが、若い人の意見が少ないので全体として見ると、気にしているところはドラッグストアだと思って分析すると、薬品関係が主商品であり、高齢者はドラッグストアが無くて不安ではないというのが不思議だった。今の環境でドラッグストアの出店が無くて十分足りていると判断できると思う。町がどう考えているのか発表しなければ前に進まない。皆が津別を良くしようと思っているので、問題点を発言すべきで、それを吸い上げて、町の考えを表明すべき。

委員：自由記述から、ドラッグストアへの反対意見が多い。プロポーザルの段階から形が変わってきている。状況としてもニコット出店などで変わっている。町民の意向も変わっているはず。もう一度、建てるのか、建てないのかから話し合うべきだと思った。

委員：最初にドラッグストアの出店で犠牲になる人の意向を汲み取ってほしい。と発言した。役場としてどう汲み取るのか。意向調査もその方たちへの配慮が欠けている。商工業の方の意向は大事だと思う。グリーンマートがドラッグストアと同じ場所でどう思っているのか。これまでの間に、ステークホルダーの考えはどのようなだろうか。それを発表していただきたい。

委員：やっと少し方向性が見えてきたので、これから少し動き出すのだろうと思う。協議会の意義はまだ先にある。前段の整理というものが、整理すべき問題

点がある。大きくは、予算（財政）、ドラッグストア、アルファコートの3つであり、これをクリアにしていかなければならない。どこまでの意見が反映されるのか、わからなかった。まちづくり懇談会などの説明で、町の想いが伝わっているのだろうか。例えば町民税が上がらないことなど、町は「それは無いです」と言っても町民はそれすら知らないこと。そこが不安であり、シンプルにわかりやすく説明していく必要がある。それをやらないと良い意見も出てこない。

委員：2才以下の乳幼児を持つ親の会から参加しているが、ニコットだけでは事足りない。子どもの物は町外で買う。子連れで町外に買い物に行くのは大変。会の総意として大賛成である。町内でアレルギー対応の食品なども選べない。都会から来て運転歴の少ないママさんもいる。かといって、町の商店を利用しないわけではない。ポイントカードが無いということも話題に上る。共通ポイントカードができれば、購買意欲も増える。次世代への負担が心配という意見が多かった。不安に思う人も多いと思った。無いのであれば、無いと言ってもらえれば安心する。

委員：人口減少が進み「孤独」というのがテーマになってきている。図書館は用事が無くても行ける施設。新聞を読みに行くなどして、そこで知り合いに会い、そこで一緒に出掛けるとかということもある。買い物をして、ついでに図書館へ行き、そこで友人に会い井戸端会議が始まったりなど、賑わいを一番のベースに考えたい。ドラッグストアを云々というのは主題ではなく、あくまで副次的な物であり、一番は目的が多くなれば人はたくさん集まる。なお且つ、緑地や公園などを作り、子供が立ち寄れるような場所を作ったり、人が人を見に行ける場、少しでも孤独が緩和できるような目標をもって取り組んで欲しい。

委員：個人的にはドラッグストア賛成。長い目で見ると、ニコットなども商品の回転が進んでいるように見えない。町民がドラッグストアに賛成か反対かというよりも、ドラッグストアに何を求めているか。それを調査しても良いのではないか。所属の組織で集まると、パパの会話になるが、オムツが買えないなどの話をいろんな方からよく聞く。ニコットでは品揃えが良くない。だからネット買ってしまふ。だからこそドラッグストアに何を求めるかを調査してもよいのではないかと思う。

委員：財政シミュレーションが第一だと思っている。前回、基金を活用するとの話があった。いろいろある事業の優先順位を実行していく中で、基金が枯渇しないのか、心配している。意向調査でもあるが、利便性は求めるが財政的な裏付けがないといけないと思う。町からの「大丈夫」という担保が無ければ、ドラッグストアだけでなく図書館も含め、進んではいけない。利便性は絶対あった方が良い。

委員：反対ばかり言って良いのかなと確かに思うところはあるが、皆さんも心配している町民税は、上がらないと回答があった。では介護保険料や水道料などが上がるだろうかと周りで話したことはある。間違いなくそうになっていくと思うが、若い人たちにはそれが見えていない。若者はネットで物が買える。老人はネットを使えないが、意向調査を見ると不自由していないのでは。それよりも町の将来を不安視している。商工業者は自分たちの資本で事業をやっている。まちづくり懇談会の際に、町長は商工会に対しアンケートの意見（地域公共交通計画策定時のもの〔町ホームページで閲覧可能〕）を読み上げた。それを聞いてとっても悲しくなった。そこまで言うのか。あなたたち商工会は要らないということかと思ったくらい、ひどい内容だった。各店舗の心配などは無いのか。店舗に顔を出して様子を聞くなどは無い。公務員の方もそれほど商店街で買うことも無く。懇談の場で町長は自ら言ったが、商工会と町長の懇談会をほとんど行っていない。林業とJAくらいだと。何故、商工会への心配が無いのか。

委員：当初は民設民営であった。それに反対はできない。それが、公設民営に変わったので、商工会としては反対と言わざるを得なくなった。私は公共交通の委員も兼任しているが、この事業について公共交通の会議で議論しないのかと訊いたが、バス事業者と協議しながら進めると言われた。しかし図面には表れてこない。実際どうなのか聞きたい。道道の一部拡幅が過去の図面では出ていたが、最近は出ていない。拡幅するとなると店舗の図面も変わる。これまでのことを整理した回答をもって、総合的な議論していきたい。

委員：第1回目の際に、特別委員会で施設を整備すると決めた段階で参加していると認識している。行政と町民の温度差があったから反対が増えたのではないか。ドラッグストアはニコットができてから、無くても満足している年代もいる。若い方には足りないこともあると思ったが、我々は満足している。

委員：アンケート結果を見ると、スーパーに期待しているがドラッグストアに期待が無いことを分析すべき。最終的には住民が決めること。理想を言えば、町民がその店舗で買い物をして生活していくこと。人口減少に伴って商売にならない。署名運動で町民にノルマを課す自治体もある。過疎で高齢者が多い町なので、個々で防衛策をとっている（トドックなど）。薬品は無いがドラッグストアで売っているようなものについても選べる。それと財政問題は大丈夫かと言うが、これはわからない。町民税6億に対して、公共施設の管理費（人件費等除く）は11.4億。コロナで国の財政も借金まみれ。でも国は2025年にプライマリーバランスの黒字化を目指すという。つまり収入に見合った支出にする。そのとき、どこが影響するかとなると、地方交付税を減らすということもあり得る。平成の大合併の際もそう。町長は20億の自由な金があると言うが、病院に早く着手して欲しい。死に場所をどこに持って行くのか。病院に着手すると2、

30億かかる可能性がある。国が財政収支黒字化を目指した時に、町にお金はあるのか。そこを若い人たちも含め覚悟があるのなら、ドラッグストアを誘致してもいいのではないですか。

委員：ドラッグストアが身近にあると利便性が上がる。拠点整備事業を進めていった方が良いと思う。ドラッグストアへの批判ばかりが多いが、スーパーはどうなっていくのか。スーパーの議論がほとんど出ない。民設民営から公設民営に変わったとの話もあったが、ドラッグストアもスーパーも同じ条件だと思うが。ドラッグストアの方が企業母体として大きく、事業としての持続可能性は長いと思う。スーパーをどう持続可能にしていくか商工会としても考えているのか。

委員：それが推進協議会の役割ではないのか。よそから持ってくるのではなく、自分たちの地域を自分たちの手でつくるのであれば、地元のスーパーをどう継続させるのかを議論しないといけない。まちづくり会社のようになぜよそ者を連れてこなければならぬのか。なぜそんな進め方をするのか。意向調査の回答者に聞くと、行政不信という声もある。進め方に大きな問題がある。

委員：ドラッグストアだけが非難されるのではなくて、スーパーも住民ニーズにどう応えるか議論していくべき。

会長：それもこの場で議論すべき内容かどうか整理が必要。

アドバイザー：意向調査を見ると70代で図書館へ「期待しない」が多いことに、非常に残念であり、世代間の考えに差があることに悲しくなった。ドラッグストアについては難しい問題であるが、人口減少下の町の施策は、どんな施策も痛みを伴うもので、リスクを取らないとやっていけない施策ばかりである。ドラッグストアの出店で疲弊する商店が出るとの意見もあったが、当然それは起こり得る。だが、もっと総合的に見ると、例えば薬局やスーパーはいつまで営業続けられるのですか。後継者いるのですか。本当はそこを考えなくてはいけない。それらを総合的に判断して施策を考えていかなければならない。町長もその点を商工会に伝えたかったのだと思うが、全ての人が良かったと思う施策はもう無い。リスクは必ずある。リスクをどうカバーするかということを考えるべき。公共施設の維持管理費が町民税の2倍という話が出たが、実態としてどこの自治体もそうだ。ドラッグストアが撤退した時に、古い公共施設の機能を持つてくるなど、公共施設の集約化などのリスクヘッジも考えるべき。リスクがあるからドラッグストアに反対と言うのは、あまりに守りに過ぎる気がする。スーパーの後継者問題は皆が不安である。ドラッグストアの撤退よりも心配すべき事項。個人営業のためリスクがあるのであれば、法人化することでリスクヘッジする方法もある。その時に町民が自ら出資をする。そこに調剤薬局にも出資をして法人化し共同で運営することも考えられる。リスク回避の検討もせずに、今、直面していることだけで、リスクを恐れての反対というのは「将来を考える」と

いう上では問題がある。先程、公設民営の話も出たが、公設でも民設でも出店する店舗は変わらない。影響を受ける商店があることに変わらない。公設だから反対という理由が良くわからない。色々な思いがあるので、町でどう議論していくか整理が必要。複合施設の強みが議論されていない。例えば、買い物した後は、高齢者にとって荷物持って帰るのはしんどい。商店の宅配だけでなく、皆の協力が無いとマーケットは縮小していく。拠点であることによる乗り合いなど、共助の力で持続できるよう知恵を出して実行していくべき。あまり断片的に見て賛成、反対ではなく、総合的に判断すべき。

委員：今の意見がもっともだと思うが、議論の最初から図面が出て、こういうふうにやりますからとスタートしているので、そこまでの議論に至っていない。どう賑わいを作るかの議論を一度もしていない。結果、賛成・反対の議論になってしまっている。

会長：ハード先行でソフトの話ができていない。この計画を進めるにあたって立ち止まって考えることもあるんじゃないか。そこをクリアして次の議論、プランの話などに進める。時間的制約も含めて、委員としてどう判断していこうか。どこへ進んでいこうか整理が必要。このままではせつかくの計画も賛成・反対の議論に終始して、他の議論ができない。この町のために何とかしたい。町の将来のために推進していくことに変わりはない。これだけは信念をもってあたって欲しい。

アドバイザー：ドラッグストアにスポットが当たっている。その判断をするにあたり、そのドラッグストアは地元との共存・共栄などを掲げているが、どう取り組んでいるのか。江差との実態などの情報があると良い。ドラッグストア側も、住民も商工会も共存を考えるために情報があると良い。

会長：それには異論はないと思う。私も勉強しなくてはならない。江差町と連携協定を結び、商店街も一緒になって頑張っていると聞く。それらをみんなで共有していきたい。

委員：そうなると、振り出しからのスタートになるが。

委員：振り出しであれば、計画も完全白紙に戻して皆で絵を描いていく形にならないといけない。一旦、行政不信に陥ったら回復するのは大変なこと。前回協議会の前にアルファコートと覚書を交わしているとか、そんなバカみたいなことを絶対しないというなら、もう1回始めても良いが。

会長：振り出しに戻る気はない。基本計画は皆さんで作ったものではないか。しっかりと進められるよう準備を進める。

6. 今後の推進協議会スケジュールについて

事務局：次回も短いスパンでやっていくべきか。

委員：委員長のスケジュールなども加味すべき。整理できるかできないかがあると思うので、どれくらいのスパンで開催していけるのか。

会長：具体的な進め方について整理していきたい。

委員：意向調査に対する町の考えは次回聞けるのか。

事務局：見解に近いものは、先程も説明の中で触れたつもりだが、正式なものではない。特別委員会やまちづくり懇談会などで、何度も言ってきたが、今回の調査は、イエスかノーかの投票をしたわけではない。どうもそう捉えている方が多いようだが。

委員：では、今回の結果でドラッグストアが要るか要らないかにはならないということか。何の意味も無く調査をし、町は何も感じることも無く、何にも反映しないのであれば、乱暴なやり方である。町の考え方は何もないということか。

事務局：そういうことを言うてはいない。

委員：調査結果を見て、何も感じないなんて人はいない。今日出された調査結果は、たたき台だから、この意見に対して皆はどう思うかなどは言って良いと思う。

委員：意向調査の内容をドラッグストア側に共有すべきでは。商売の成り立ちに係ってくる。スーパーも交通拠点も含めて、どんな利点が出てくるのか。循環バスが運行されるようだが、町民に意見聴取も無かった。行政は縦割りで連携が無いからこうなる。年寄りが使いやすいのか。

会長：その話は別の機会でお願ひする。

アドバイザー：町の見解を問うのであれば、商工会としての見解も聞きたいが。

委員：商工会の調査は、内部で簡潔してしまう。地元スーパーは最初から公設だった。ドラッグストアは民設だった。その辺について問題無いかと、会員に訊いてはいるが、それらについて何も言うことはできないということであった。そういった中で判断しているので、商工会としてこの意向調査に対して見解を述べる必要は無いと思っている。

アドバイザー：町民は、商工会として見解を述べないのかと感じるが。

委員：意見の中には、実名も出ているところもある。いろんなことが言われている。個人的に答えたいところもあるが、それぞれの話であるので黙って聞いている。

委員：ドラッグストアが地元とともにという点を踏まえ、今の商工会の方たちの声を全体の意向として、ドラッグストアにも来てもらい、一緒に何とかして町からの施策を引っ張り出すということもできるのでは。そういうことには皆さんも賛成していると思うので、商工会も乗っかって、町から協力を得て進めてはどうかと感じた。実際には商工会の皆さんも、現状を何とかしたいと思っているのでは。

委員：財政シミュレーションやドラッグストアの情報など、あらかじめ想定して資料を用意していただきたい。他の委員の疑問や確認すべき事項についても明確にし

ていただきたい。スーパーとドラッグストアで商品の住み分けなどで、共存にも繋がるのでは。介入できないところもあるが、そういった話合いもできるのでは。

町長：ドラッグストアの関係は、まちなか再生基本計画がベースになっている。その際に1,000人へのアンケートをとっている。その際にドラッグストアが欲しいという声が多かった。その計画がベースになっており、それが町民の意向と捉えている。ではどういった整備をするか7つの選択肢（ex.民設民営、公設民営など）があったが、最後の公設民営に落ち着いてきている。計画の中でもそれはあり得る前提として書かれている。そういうことを踏みながら、ここまで来ているということを確認していただきたい。事業費についても、当時よりも財政的には改善してきている。交付税にしても町が考えている額より多くなっている。交付税は今後増えていく。それは、建物の返済見合い分なので、勘違いしないことが大切。人件費も平成13年当時から半分とまでは行かないが、それくらい減らして貯金回してきている。ご心配なさらないようお願いしたい。以前、商工会のパティオ計画もあったが、現実には至らなかった。色々な理由があつたのことで承知しているが、今は行政としても力を入れなければならないという感覚である。商工会に対しても様々な支援してきている。決して商工会にそっぽを向いているわけではない。今回も外の事業者と町内事業者がタッグを組んで、どういった改善をしていくのか考える必要がある。そのひとつが共通のポイントカードであり、win-winなものにしなければ今後大変な状態になる。

副町長：アルファコートとの覚書については法的な部分はクリアしていると思っている。詳細は次回説明したい。